

# 上村和子 活動レポート

うえむら



こぶしの木 No.68

2016年11月25日発行

市制50周年  
記念

## 50年後も「こぶし」なら生きていける」と思える町に

### 「しよつがいしやが当り前に暮らすまちの歴史展示」を提案

9月議会で私は、市制50周年にあたる来年、郷土文化館で「しよつがいしやが当り前に暮らすまちの歴史展示」をしたらどうかと提案しました。当局は「検討する」「しよつがいしやについて初めてそのような町の歴史という視点からの提案を受けた」と答弁しました。

国立市には「しよつがいしやがあたりまえにへんす」町の歴史があります。国立市で、重度しよつがいしやの人たちが頑張ってきた、そのことで町全体がどういう影響を受け、どういう町になってきたのか。そのことをいまま共有したいと思いました。

2016年国立市議会第3回定例会が8月29日から9月16日まで、15年度決算特別委員会が9月29日から10月4日まで開かれました。

「こぶしの木」今号は、「しよつがいしや」と「公立保育園民営化」の問題を中心に、その他の活動を含めて報告します。

園で凄惨な事件が起きたとき、私は大変なショックを受けました。そして、8月に車イスの友人家族と献花に伺いました。園は決して閉鎖的な印象ではなく、この施設でなぜこの事件が起きたのか、この思いを抱きました。

9月議会一般質問で、私はこの事件の容疑者が語ったという言葉から「トッター思想」について、当時ドイツで作られたポスターを示し、説明しました(写真)。そこには「この遺伝病人の一生のせいで民族共同体、ドイツは6万RM(ライヒスマルク)を

### 「スポセンを災害時の障害者避難場所に」一歩すすむ

6月議会で、東京都多摩障害者スポーツセンター(以下、スポセン)を、災害時に福祉避難所に変更するよう東京都に要請することの私の提案について、9月議会で進捗状況を質問しました。

行政管理部長から、7月7日に佐藤市長・健康福祉部長と共に

失っている。民族同胞の皆さん、このお金はあなたのお金でもありませんですよ」と書かれています。

ユタヤ人虐殺の前段にトッターは「安楽死」の秘密命令を出



し、しよつがいしや以外も含めて15〜20万人がガス室や餓死などにより殺されました。その

スポセン所長を訪問し、災害時における福祉避難所としての利用について今後東京都を含め、交渉を行っていききたいと伝えた。

8月3日に行政管理部長・防災安全課長で東京都総合防災部を、8月26日にスポセンを所管している都スポーツ推進部を訪問した。その中で、帰宅困難者の一時滞在は原則3日間とのことだったので、4日以降福祉避難所として利

背景には「トッター」を支持した貧困化した労働者社会があり、「安楽死」虐殺を社会が容認した歴史があります。

今回も、「しよつがいしやに多くの税金がかかっている」という危ない感覚がすでに漂い始めているからこそ、この犯罪が起きたと言えます。従ってこのようなことを許さないためには、「しよつがいしや・高齢者・働けなくなった人たちに、税金を使うのはもったいない」という空気を払拭することが必要です。

一緒に献花に行った車イスの友人が「私は国立市なら生きていけると思っています」。

50年後もこの町なら生きていけると思える町づくりのため、全市的に取り組む事業を実現していききたいと思えます。

用することについて話し合いを行い、担当部との調整や了解が必要だが対応は可能との回答を得た。それを受けての都スポーツ推進部との話し合いで、今後総合防災部を含めた三者で、調整をしていききたいという話になった。次回、9月13日に三者による課題の整理を行い、引き続き交渉を行っていき、との答弁を得ました。

# どうして急ぐ？公立保育園民営化

## 「保育審議会で検討」の約束はどうした

### 保護者と現場の声を無視しての強行はダメ!!

#### 9月議会、公立保育園民営化問題

「民営化」が昨年12月に決まっていたなんて!

公立保育園民営化の記事が市報7月号に載り、市民から「いつ決まったのか?」という疑問が多く寄せられました。そこで9月議会の一一般質問では、まずそのことを聞きました。

市子ども家庭部長は、「財政健全化の取組方針実施細目」の方針に基づき、2015年12月14日の行財政健全化推進本部会議において「保育審議会の諮問について」を諮る中で、庁内合意をした」と答弁。

しかし13年に保育問題連絡会(以下、保問連)が市と交渉した時に、市長は、公立保育園の民営化については保育審議会に問い、その答申を受けて行政で検討する、と答えています。また15年5月の保問連の公開質問状に対しても、市は保育審議会に諮問して考える」と回答しています。

ところが15年12月22日、市が保育審議会に出した「公立保育園の民営化のあり方について」の諮問は民営化に当たってのガイドライン作成までを求めており、審議に当たっても民営化の

是非は問わないとしました。議事録には保護者委員のとまごいの様子記録されています。

16年5月に保育審議会は答申を出し、市報はそれを受けたという形で「民営化」と掲載しました。しかし実際は市は諮問以前に民営化を決めていたのです。

しかも、答弁が根拠としている「実施細目」も本部会議も誰がどのように決めたのか議事録もありません。プロセスがあいまいなまま強行することは、将来にわたって禍根を残すことは必至です。

#### 現場・保護者との共有なし

また市が民営化を決定したことが、園長・保育士・保護者に共有されているか問うと、市は「共有化している」と答弁。しかし、この間上村の知る限りの現場職員・保護者は「知らなかった」との反応でした。

そして保育審議会の議事録を見ると、何よりも、この間どこにも保育の質につ



いての議論がなされた形跡がありません。

5月に市報に載せ、ガイドラインを11月までに作り、12月に民営化する保育園を決めてしまう、というのは、あまりに拙速で、子ども・保護者・現場無視であり、12月の民営化園の選定は延ばすべきであると強く求めました。

#### 公立4保育園保護者会連絡会の対市交渉を傍聴(10月29日)

10月29日に連絡会の対市交渉があり、傍聴しました。

議論の中心は民営化問題でしたが、障害のある子どもへの対応

#### 保護者の状況と取り組み

この間、多くの公立保育園保護者の方から話を伺いました。

#### ◆当事者が軽んじられる審議会

保育審議会委員の中で公立の保護者は1人でした。諮問の最初になぜ民営化の是非を問わないのか問い、途中でも公立保育園保護者の多くが民営化に反対していることを伝えましたが、審議会の中では孤立し受け入れられませんでした。

#### ◆保護者会が全議員に公開質問状

公立4園保護者会連絡会が行った保護者意識調査では77%

応や防犯・災害時の対応、新設の「矢川プラス」(保育園・学童・発達支援室)など、幅広く子どもにとつてのよりよい保育をめざして行政担当者や園長・保護者が円卓で話し合う貴重な場だと思われました。

しかし行政側は、ひたすら民営化を日程どおり進めるといった態度で、保護者の意見を受け止める姿勢は皆無でした。

また公立保育園に適用される職員配置の充実を規定した「くにたち基準」について担当課長は、運用であり、見直ししなければならない、と答えました。

が「反対」に属する回答を行いました。連絡会はその資料を添えて全議員に質問状を出しました。質問内容は、①民営化は待機児童解消策になるか、②保護者に対する説明は十分か、③このまま進めてよいか、④議会が判断するのに十分な説明・知識が得られたか、不足する部分はどこか、⑤民営化への賛否、⑥市が「保育の実施主体」として私立、公立に平等に責任を果たす上で市の役割は?、⑦民営化についての意見、です。議会は保護者の声を真摯に受け止め、話し合いを継続させる必要があります。

# 映画も対談も素晴らしかった

## 「SAYAMAみえない手錠をはずすまで」上映会

### 芸小ホールに270人超が集まる

10月14日夕方から開催された上映会は、270人以上が参加しての盛会になりました。

映画は、狭山事件の冤罪・再審を訴える石川一雄さん早智子さんを、運動場面だけでなく

早智子さんと金聖雄監督の対談も、それぞれの人となりが何われ、映画の感動を一層深めました。

2人とそれに関わる人々の日常や思いを淡々と描いています。冤罪の犯罪性と同時に、闘う人のつよさや誇り、そして学ぶことの重みが心に残りました。



# 「差別を許さない」

## 印象的だった

### 市長の上映会挨拶

「SAYAMA」上映会の始めに佐藤国立市長の挨拶があり、「差別を許さない」という姿勢を明確に示して、印象的でした。後日、実行委員会で挨拶に伺った時の話も含めて、市長の発言を、上村の責任でまとめて紹介します。

## 差別をなくすのが仕事

「あなたたちにも小さいけれども部落はあり、差別は今も残っていると思います。自分は執行責任者として、ソーシャルインクルージョンの町、差別のない町を目指してまいります。」

差別は作られたものであり、

そういう作られたものをなくすのが自分たちの仕事ではないかと職員に言っています。自分がどこに立っているのかわかる必要があります、職員にそのために学べと言っています。

## 差別はなくなったか

本当に差別はなくなったのか点検しなければなりません。「公保の子守唄」には公保地域の地名が全部入っています。唯一つ被差別部落の地区だけが欠落しています。市長に就任した当時、そのことを教育委員会の職員は知りませんでした。それで「知らなかったら勉強しろ」と言いました。

## 優生思想の怖さを

### いま知らなければと思う

小学校で同級ののこさんはい

じめられていて、いじめっ子たちが「おまえんちは顔をあろう洗面器でそば食ってんのか」と言った時にはケンカしました。自分がそういう小学生になつたのは、母からそのことを学んだからです。母は公民館で学びました。

国立市で来年2月から行う連続平和学習は、加害としての戦争についてやっていきたい。ヒトラーのような「違う人間は排除する、殺す」という優生思想の怖さを、いま知らなければと思うからです。どんな状況があっても、この町で安心して暮らしていける仕組みを作っていきたい。それが自分の責任です。

差別を許さない意識、人権感覚には、教育がいかに大事か、ということをお話で再認識しました。

# 9月議会 2015年度決算委員会

15年度決算を、私は「不認定」としました。要点を報告します。

## 【歳入】

### ◆町全体のビジョンこそ必要

国立市の財政は富裕団体に属するくらい健全ですが、市は、将来的にお金がかかるから財政改革が必要と、市民をどんどん厳しい状況に追い込んでいます。

しかし少子高齢化で市税が頭打ちになっていく時には、町全体をどうやっていきたいかというビジョンこそ必要です。

ビジョンの中心となる国立市の特色として、永見副市長は、文教都市ということに象徴される文化性と人間、そして人間を大切にするという理念の町であること、と答へました。

それは同感ですが、どうやって外に発信していくのかを考える必要があると発言しました。

## 【歳出】

### ◆旧国立駅舎復元問題

市は旧駅舎を国立駅前へ復元する計画を、17年度実施設計、19年度建築工事、建築費9億5千9百万円の見通しを進めています。(※)

国立駅から真っ直ぐ見える風景は、高架になり旧駅舎がなく

なることで生まれた財産です。この眺望を残すことが、国立市の未来に向けての投資です。

(※1) 後日JRと国立市が10月31日付けで、旧国立駅舎再築用地(510㎡) 売買の覚え書きを取り交わしました。それを受け、12月議会の補正予算に約6億6千万円が本件用地費として提案されることとです。

私は、「眺望」という大切な財産を守るために、しっかりと反対していきたいと思えます。

### ◆給食センター建て替え問題

15年度に市が作った「公共施設白書」では、給食センター建替えはP.F.F. (※2)等の方式での検討が必要とあります。そのことは給食センター運営審議会の審議を経てなされたのかと問うと、市は16年2月25日の審議会での説明、と答へ。しかし「施設白書」は3月には印刷製本されており、審議したとはいえず、P.F.F.方式に合意は得られていなかったということとです。

審議会からは意見書も出ており、意見が「白書」等に反映されていない、ということが問題です。

(※2) P.F.F.は公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うこと

# 12月議会中間報告を兼ねて 上村和子と市政を語る会

日時:12月17日(土)午後1時半～4時  
会場:くにたち福祉会館3階中会議室

12月5日から議会が始まります。傍聴にお越しください。

## 上村和子活動日誌 (2016.8～11月)

★:市議会関係事項 / \*:集会等への参加 / +:以後の会合は記載省略

- 8月3日 子ども朝ごはん手伝い+
- 5日 SAYAMA 実行委員会出席+
- 7日 公立保育園民営化問題についての話し合い出席+
- 10日 ★市議会運営委員会
- 11日 「人権ビデオを見る会」 \*
- 13日 やまゆり園献花訪問
- 16日 ★一般質問通告  
公民館をまもる会\*+
- 23日 ★議会運営委員会
- 25日 「ハムケ・共に」定例会\*+
- 27日 かいゆう評議員会出席
- 28日 矢川上公園の総合防災訓練\*  
上村和子と市政を語る会開催
- 29日 ★定例市議会初日
- 31～5日 ★市議会一般質問
- 9月5日 ★上村和子一般質問
- 7日 ★総務文教委員会  
地域包括ケアシステム学習会(芸小ホール) \*
- 8日 ★建設環境委員会
- 9日 ★福祉保険委員会  
人権ビデオを見る会(野宿生活者編「寿」) \*
- 15日 ★最終本会議
- 22日 「認知症の日」催し\*(一橋大学)
- 23日 生活保護同行支援
- 27日 障害者福祉 65歳問題講演会\*(芸小ホール)
- 29～4日 ★決算委員会
- 30日 宮瀧順子さん差別図書出版問題学習会\*
- 10月1日 テント芝居「混沌にんぶち」\*(矢川上公園)
- 4日 ★議員有志勉強会①給食センター建替え問題\*
- 14日 「SAYAMA-見えない手錠をはずすまで」上映会\*
- 15日 高校無償化集会\*(赤羽会館)
- 19日 ★福祉保険委員会研修「地域包括」講演、視察
- 21日 女性総合電話相談事業話し合いコーディネーター
- 28日 ★議員有志勉強会②公共施設総合管理計画  
学習会「マイナンバーと子どもの人権」\*
- 29日 公立保育園保護者会と市との懇談会傍聴
- 11月6日 保育問題連絡会学習会で報告
- 8・9日 ★福祉保険委員会視察(大牟田市)
- 10日 第3回人権ビデオを見る会\*
- 13日 「しょうがいしゃがあたりまえに暮らすとは？」講演会\*
- 18日 ★12月議会説明会

### 上村和子

1955年、長崎市に生まれる。高校教員を経て、85年から国立市に住む。PTA活動の後、98年、市内滝乃川学園の非常勤職員。99年、市議会議員に当選。滝乃川学園の豊かな自然といのちの象徴として、一人会派名を「こぶしの木」とする。5期目。人権が守られるまちをめざし、全力で務める。福祉保険委員会に所属。



**秋のくにたち駅前眺望**  
市民祭で賑わう大学通り。プラットホームから、何人もの方がこの景色を眺めていました。

### 認知症になっても安心して暮らせる町ー認知症ケアコミュニティ推進事業取り組み視察

11月8・9日 福岡県大牟田市

福祉保険委員会の視察で大牟田市に行ってきました。同市はデンマークの高齢者福祉の理念を早くから取り入れ、介護保険の前から課長と現場職員等と一緒に研究会を作り、取り組みを進めてきました。研究会の成果を施策に活かし、高齢化率34%という中で、水準の高い先進的な施策を実現しています。



写真=長年認知症ケアに携わり、研究会の中心的メンバーの1人でもある大谷るみ子さんと。(社福)東翔会「高齢者総合ケアセンター サンフレンズ」にて。

れ予防・相談検診、予防教室の整備、市内25カ所もある小規模多機能型居宅介護事業所、そこには地域交流スペースの併設を義務化し、通い・宿泊・訪問看護・配食などを行う等、幅広い活動を展開しています。

国立市の高齢者福祉にぜひ活かさなければ、と思いつつながら帰ってきました。

### 9月議会本会議から

### 資源物持ち去り禁止条 例案に反対(結果は「採択」)

市はごみ回収で集めた資源物を売却して収入にしています。故紙の値段が上がっている昨今、回収前に横取りする特定の業者があり、また車で猛スピードで取っていくので危険、等の理由で、市は条例を提案。この条例には罰金刑の規定があり、警察への通報が可能になります。

しかし罰金は、効果の検証がない、行政事業になじまない、路上生活者など資源物を生活の糧とする人まで規制対象になる、等により上村は反対しました。

### 不採択にできませんでした!!

「女性の人権問題解決を世界に訴えることを日本政府に求める陳情」

この陳情は、①「慰安婦問題」について当時の軍の関与は慰安所設置・衛生管理・輸送に限定されたものであり、強制連行して慰安婦とした記録は発見できなかった、②世界各地の人身売買等の人権蹂躪行為をやめることを、日本政府が国際社会に発信するよう、意見書を提出してほしい、というもの。

情報を得た市民が陳情採択を危惧し、日本こそ人身売買危険国であるという資料を揃え、各会派に熱心に働きかけた結果不採択にすることができました。